

□議員名：中岡 英二

1 市場開設に向けた取り組みについて

論点	市場開設に向けて市場関係者が不安を感じているが、市はどのように対応するのか。
回答	今後、市場関係者の要望に応えるべく市で説明会を開催し、開設者の会社概要や取引内容・業務規定について説明する機会を設けていく。

論点	県の認定が下り、仲卸業者・売買参加者・附属営業人は現状のまま全ての市場関係者が承認されるのか。
回答	開設予定者からの事業計画書の中にも「引き続き売買参加者等の取引は継続する」と明記され、聞き取り中もそういう確認をしている。

論点	今後の山陽小野田市と市場の関わりは市場施設の管理業務のみだが、以前の決算書の不明な点についての調査は続けていくにか。
回答	決算関係の調査は、現在行っている。ただ、調査結果の結論については出ていないので引き続き調査をしていく。

2 これからの本市のコロナ対策について

論点	コロナウイルスとインフルエンザの同時流行に備えた本市の医療体制はどうか。
回答	発熱等で体調を崩された場合は、まずかかりつけ医に電話で相談。かかりつけ医の判断でコロナ・インフルエンザの検査、又は他の医療機関への紹介をしてもらう。かかりつけ医が居ない場合は、県の専用ダイヤル、又は平日であれば市の健康増進課へ連絡してもらう。

論点	検体採取した患者への PCR 検査結果報告にどのくらいかかり、費用はどのくらいなのか。
回答	検体回収の時間にもよるが、早ければ2～3時間。遅くても半日後位で結果がわかる。地域外来・検査センターによる検査については無料だが、診察料等保険診療部分については負担していただく。

論点	発熱もなく無症状の方は、本市で PCR 検査が出来るのか。又、費用はどれ位かかるのか。
回答	無症状であるが自分で検査を受けたい場合は、自費での診療となる。費用は検査機関によってバラバラだが、例えば県内であれば山口県の予防保険協会で PCR 検査費用 2 万 7500 円となる。

3 市民病院のコロナ対策について

論点	市民病院のコロナ対策・発熱外来患者への対応。発熱から検査までの流れについて
回答	事前の電話連絡をお願いし、一般入口から離れた感染症外来入口から発熱患者用診察室で診察を行い、医師の判断で PCR 検査・抗原検査を行う。

論点	今後の感染拡大に備えた医療物資の備蓄は大丈夫か。
回答	在庫状況は改善されているが、安定した医療体制が継続できるように計画的な備えが必要と考えている。

論点	全国で院内感染を恐れて過剰な受診控えがあったが、市民病院ではどのような感染予防対策をとっているのか。
回答	設備面では、市民病院の建物は 1 時間に 2 回部屋の空気を完全に入れ替える換気機能を備えている。感染者用の陰圧室も有り、感染病域と非感染病域を完全に区分している。体制面では、院内感染対策を専門とする医師・看護師 4 名がおり、対策会議・研修をする等、院内感染対策には万全を期している。

4 市民病院の経営改善をどのように進めるのか

論点	市民病院のこれからの経営改善をどのように進めていくのか。
回答	収入面では、診療報酬費上、優遇されている地域包括ケア病棟の開設により収益向上を図っている。支出面では、材料費のベンチマークや共同購入により支出を抑えていきたい。

論点	5月に経営参加が入られて経営改善が進んでいると思うが、指摘のあった収入増加対策があるのか。
回答	収入増加対策としてクリニック、訪問先の拡大・急性期の包括払いであるDPC病院への参加・急性期入院基本料の上位取得の検討がある。

論点	今後の地域連携室は、市内クリニックや介護施設への連携に大変重要な役割を持っているが、今の人員体制でいいのか。
回答	人員の拡大については、将来の紹介患者数・逆紹介患者数の動向を見極めながら検討していきたい。